

NPO K's Point

第3回 運営会議（総会）

開催日：2014年4月19日（土）午後12時30分～12時45分

議長：森本 武（NPO K's Point 代表、京都嵯峨芸術大学教授）

司会・書記：伊藤 あゆみ（NPO K's Point 事務局長）

目次

『NPO K's Point mission（目的）』（P.1）

【報告事項】

1. 活動報告

- ・2012年度後期／2013年度前期（P.2, 3）

2. 収支報告

- ・2012年度収支報告（P.4）

3. 2014年度活動計画（P.5）

- ・事業別年間計画
- ・出版事業

NPO K's Point

mission

目的

J. クリシュナムルティの思想研究をとおして、思考に依存しない生き方の可能性をさぐり、人間のいだけ不安の軽減、解消の実現をはかる。
より具体的には、「今」という絶対的現在を曇りなく生きる知性の存在を検証し、その成果を種々の活動、媒体をとおして広報する。

1. 本会は、一定の目的をもった慈善事業を営む資源を確保するため、営利事業にも節度をもって取り組む。
2. 目的の実現と手段は直結しているので、手段としての営利事業の取り組みにおいても、常に目的の内包する意義を逸脱しないよう細心の注意を払う。
3. 組織的成熟にむけて短中期的に構想するが、長期の見通しはもたない。

1. 活動報告 2012 年度後期／2013 年度前期

■ 2012 年度 後期 (2012.12.1-2013.5.31)

2012 年

12 月 2 日 講演会「クリシュナムルティと神哲学」

(大阪市立総合生涯学習センター・大阪市北区)／講演者：森本武 (NPO K's Point 代表)

神哲学協会の指導者リードピーターに「利己心のかけらもない少年 (14 歳)」として発見されたクリシュナムルティは、その後 (34 歳)、「真理に至る道はない」と突然言い放って同協会を見捨てた。そして、90 歳までの残る生涯を孤独な探求者として生きた。

クリシュナムルティの思想の独自性は、方法や知識体系を切り捨て、自己と徹底的に向き合うことの奨励にあるといえる。

それでも、神哲学協会を見限った彼の、あえて明示的に言及しない言説の「空白」部分に神秘主義的思想が隠されているのではないかと推測できる。

神哲学の基本的教義を知ることは、クリシュナムルティの思想を一層深く理解する一助になるうかとおもう。

12 月 8 日 Kの生活塾 第 10 回「依存」(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

さびしさ、心もとなさをかかえて生きる人間を描く文学や映画、あるいは音楽に、ひとはこころを強く揺さぶられる。人間の弱さへの同調、共感が容易く生起する。

人生の陰や心情に寄り添ってしまえば、依存は正当化できる。

「アルコール依存」や「ギャンブル依存」「買い物依存」などの症候は病気として知られるが、「知識依存」、「資格依存」、「人類愛依存」、「保険依存」など、ひとの陥っている中毒は多様なので、いくらでも病名はおもいつく。

ひとはなぜ依存にかたむくのか。支えにみえる依存の底に眠る破滅の種に気づいていないのではないかと。

2013 年

1 月 27 日 Tea Party 『「ひとりの時間」を考える』(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

ひとは、ひとりで産まれてきて、ひとりで死んでいく、といわれる。この「ひとり」が生きる時間、生きる世界は、どこまでも固有なものなのだろうか。

生涯、多くの人に出会うはずの「ひとり」の私だが、出会ったひとたちもみんな「ひとり」の中におさまっているだけなのだろうか。

2 月 1 日 NPO K's Point 会報『insight』第 03 号発行

2 月 9 日 講演会「^{いのち}生を知る」(マニホージュ・神奈川県秦野市)／講演者：森本武 (NPO K's Point 代表)

ひとは、ひとりで産まれてきて、ひとりで死んでいく、といわれる。この「ひとり」が生きる時間、生きる世界は、どこまでも固有なものなのだろうか。

生涯、多くの人に出会うはずの「ひとり」の私だが、出会ったひとたちもみんな「ひとり」の中におさまっているだけなのだろうか。

2 月 16 日 Kの生活塾 第 11 回「待つ」(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

予定されたものが頭の中であって、それが現実になるまでの時間を密度の高い自覚をもって見つめ続けるとき、「待つ」行為は大いなる意識の負担になる。

予定されていたものが、完全に忘れられていたら、「待つ」は消失し、待つ「予定」も待つ「人」も存在しなくなる。

3 月 1 日 講演会「ホーリスティックにカラダとつきあう」(キャンパスプラザ京都・京都市下京区)

近代医療の進歩は大いなる期待・成果と同時に多くのリスク・過誤をうみだしてきたことから、その在り方をめぐって種々の議論が活発化している。最近、ホーリスティック療法という領域が注目されつつあるが、単純に「ナチュラル (自然)」な方法と同一視され、医薬品や外科的治療などを忌避する方法と誤解されているようにも懸念される。

本講演会では、まず「ホーリスティック」という選択が何を意味するのかという生命の本源に関わる基本問題を考察する。その上で、オイルマッサージを主軸とした生命力再生の事例をとおして、ホーリスティック・アプローチ (技法) を具体的に紹介したい。

4月16日 Kの生活塾 第12回「論争」（京都嵯峨芸術大学・京都市右京区）

地上に論争はあふれている。
主張のぶつかり合う光景を、いたる所で目にする。
主張の背後には利害が存在するので、実は利害がぶつかっているのだ。プライドも、信念も、嗜好も、利害を含みもって、論争を産みだす。
大部分の学問上の論争や宗教上の論争は、真理をめぐる違いの衝突に見えても、やはり利害から完全に解放されてはいない。
そもそも、ひとが論争から得られるものとは何なのか。

5月5日 マニホージュ 25周年 移転オープン記念講演会
「瞑想、それが起こるとき—あなたは、‘現実’から‘真実’に移行する」
(マニホージュ・神奈川県秦野市) / 講演者：森本武 (NPO K's Point 代表)

■ 2013年度前期 (2013.6.1-2013.11.30)

6月1日 Kの生活塾 第13回「嫉妬」（京都嵯峨芸術大学・京都市右京区）

自己の向上という欲望が、時には、他者との比較という思考のおせっかいな動きからまって、他者を羨望するという厄介な感情を産みだすものである。
女偏の二文字は、男たちの恨み節の反映なのか。女の自嘲的告白の結晶なのか。いずれにしる、嫉妬をかかえた人生には陽があたらないのは明らかだ。

7月21日 K語・観察会 第10回「感受性—sensitivity」（ラルジャンド ポシュ/奈良・三輪）

「あなたに優れた感受性がそなわっていれば、努力なく生きていける」とクリシュナムルティはいう。ひとは努力を賞賛する一方で、努力に疲れている。
感受性に潜む大いなる力に気づかず、日々時間に追われながら、もがいているだけだとしたらそれは大きな損失だ。

8月10日 Kの生活塾 第14回「選択」（京都嵯峨芸術大学・京都市右京区）

苦の多くは迷いからくる。迷いは、主として、選択の問題である。あれかこれか。決められない。なぜ選択できないのか。生の現場における正解とは何か。
「選択」という行為に秘在する、決断力および理解力の働きを究明したい。

9月29日 講演会「『孤独』について」（キャンパスプラザ京都・京都市下京区）

コペンハーゲンの運河の脇に置かれたベンチに、読書に没頭する若い女性を見つけたとき、「ひとり」を満喫している人間の美しさに驚愕した。
孤独は、そのひとが、そのひとである様相をありのままに承認する希有の機会なのである。にもかかわらず、常にその孤独を避け、ありのままの自分を遠ざける遊戯に、仕事に、社会活動に逃げ込むひとたちは、内なる静寂を恐れ、他者とのつながりを紡ぐ行為に没頭している。

10月12日 Kの生活塾 第15回「笑い」（京都嵯峨芸術大学・京都市右京区）

アリストテレスは「笑う動物は人間だけだ」と言った。身近な動物の悦ぶ姿にふれることはあっても、それらは「笑い」ではない。が、猫や魚の表情にも、はては車両の正面や雲の形にも笑顔を読み取ろうとする人間の不思議。そのこころの源に何があるのか。

11月17日 K's Point Tea Party「人類をジワッと押し動かす」話をしよう
「クリシュナムルティの思想は、果たして大阪のオバチャンや山梨のオジチャンに届くのか」
(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

K's Point の存在を、友人や家族に説明するのに苦労した経験があるひとは、少なくないのではないのでしょうか。普段の言葉で表現するには、Kの思想は、あまりにつかみどころがない。研究会での「対話」や「生命の本質」などの議論も、実用の意識でみる日々の生活からは遠く感じ、直ちに役立ちそうにない。Kの思想の説明や組織的取り組みの困難さについては、イギリスのクリシュナムルティ・センターでも、頻繁に話し合われていました。
さて、Kの思想やK's Pointの活動を、どうすれば誤解なく明解に紹介できるものか、そこを検討してみたいのです。

2. 会計報告

2.1

2012 年度 <第 2 期> 収支報告 (2012.6.1-2013.5.31)

■ 収入の部

(勘定科目)	実 績
予備金 繰越	0
イベント事業収入	162,400
相談事業収入	500
出版事業収入	96,255
商品売上収入	45,875
年会費収入	35,000
寄付金収入	381,100
雑収入	4,221
[合計]	725,351

注：森本代表からの借入金（預り金収入）は含まない

■ 支出の部

(勘定科目)	実 績
イベント事業費	40,288
出版事業費	489,650
商品仕入	38,250
消耗品費	34,498
通信費	11,920
旅費交通費	107,610
諸経費	0
[合計]	722,216

注：スタッフへの給与等は含まない

3. 2014 年度活動計画

事業別年間計画

■ イベント事業

- ・「K の生活塾」(会員限定)：6 回 ※日程とテーマは下記参照
- ・講演会：2 回
- ・探求の会：1 回
- ・K 語・観察会：1 回
- ・その他イベント：1 回

※イベントの回数・内容等は、は予告なく変更される場合があります。

【2014 年度 K の生活塾 日程とテーマ】

- 2014 年 6 月 7 日 (土) 『「こわれた人生」をどう修復するか』
- 2014 年 8 月 17 日 (日) 『家族という関係の独自性を考える』
- 2014 年 11 月 8 日 (土) 『ひとはどうしてひとを教育したくなるのか』
- 2015 年 1 月 18 日 (日) 『自分が感じる「限界」の真偽をさぐる』
- 2015 年 3 月 28 日 (土) 『正直な自己表現のもたらす結果』
- 2015 年 5 月 17 日 (日) 『ひとはなぜ生きるのか』

■ 出版事業

会報文庫として『日常を深く生きる (改訂版)』の出版

■ PDF 版 ニュースレターの発行

本会ウェブサイト上で公開している、digital News Letter 「insight」は、年度内に 2～3 回を目処に発行

NPO K's Point
www.kspoint.com

617-0006 京都府向日市上植野町北小路 42-6
Email kspoint1998@yahoo.co.jp
FAX 075-935-5394